



歴史まちづくり

創刊号

2021.8

京都市都市計画局景観政策課

～京都市の歴史まちカード（2期）を配布しています～

国土交通省と京都市を含む近畿地方において歴史的風致維持向上計画（歴史まち計画）を策定している都市が連携し、各都市の歴史、伝統、活動等を写真で紹介する「歴史まちカード（歴史まちづくりカード）」を作成しています。

歴史まちカードは、歴史まちづくりに取り組む都市の魅力を発信するとともに、実際に地域を訪れ、それぞれの歴史を肌で感じていただくきっかけになることを目的としています。

京都市では、令和3年3月に歴史まち計画（2期）を策定したことから、新たに2期計画の歴史まちカードを作成し、右記の2箇所配布しています。

記載内容

【表面】京都市の代表的な歴史的風致の写真、歴史まちのロゴマーク

【裏面】認定都市のデータ（認定年月日、重点区域の名称及び面積、表面の写真の紹介、歴史まちスポット等）

京都市景観・まちづくりセンターと京都市嵯峨鳥居本町並み保存館で配布しています。



2期計画の歴史まちカード

歴史まち人からの便り ～〈歴史まち〉と私 ①～

京都大学名誉教授 高橋 康夫

21世紀、早くも20年が経過しました。私はこの間、京の町家とまちづくりの歴史にはじまり、〈歴史まち〉1期計画、ついで2期計画の策定をお手伝いするなど、京都の〈歴史まち〉にかかわり続けることになりました。都市史の立場から文化遺産や〈まちづくり史〉、〈文化的景観〉〈歴史的風致〉の価値を伝え、また文化財保護行政と景観行政の架け橋となるよう努めてきたつもりです。微力ではありましたが、多くの関係者のおかげで、またとない経験をすることができました。

まちづくりの歴史をかえりみることで、それによってまちづくり、とりわけ景観まちづくりを推進することは、京都の、さらには日本のこの20年の大きな社会的・都市的な課題になっていたと思います。こうした状況を背景として、2004年に「良好な景観の形成を促進する」ための景観法が制定され、同じ年に文化財保護法も改正されて〈文化的景観〉という文化財の新たなカテゴリーがつけられました。2008年には「良好な景観」を創出するためのいわばツールとして、歴史まちづくり法が制定されました。

いくつもの新規なことばがあらわれてきましたが、そのいずれにも核心に地域の自然、人々の生活と生業、歴史と文化、生活空間と文化遺産があります。良好な市街地環境を形成するそれらを守り育み、また創生することが大切だということなのでしょう。

この意味では「景観」まちづくり、「歴史」まちづくりというような区別がなくなるのが望ましい姿でしょう。さらにいえば、景観行政と文化財保護行政の統合が不可欠であるという方向性を示しているようにも思えます。実際、〈歴史まち〉計画の実施をつうじて実践的な連携が進展しつつあるようです。ありがたいことです。

高橋康夫（たかはし やすお）

1946年生まれ。1969年京都大学工学部建築学科卒業。1995年京都大学工学部教授。2010年京都大学名誉教授。2009年京都市歴史まちづくり推進協議会（現在の名称は京都市歴史まちづくり推進会議）座長。京都市歴史的風致維持向上計画の策定及び推進に携わる。



配布場所
京都市景観・まちづくりセンター
ひと・まち交流館「京都」地下1階
<住所>
下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1



京都市嵯峨鳥居本町並み保存館
嵯峨鳥居本伝統的建造物群保存地区内
<住所>
右京区嵯峨鳥居本仙翁町8番地



1期計画の歴史まちカード

わが町・わが行事 ～愛宕神社・千日詣～

京都の市中には各所に愛宕灯籠があって、遙か西北の愛宕山権現を崇拝するとともに、家々の台所には必ず「火廻要慎」の愛宕の祈禱札が貼られていました。「伊勢には七度、熊野へ三度、愛宕山さんへは月詣り」とも言われ、山頂の愛宕神社に火伏せを願って京都だけでなく全国から参詣者が訪れています。

こうした「愛宕詣」のなかでも、ことに7月31日夜から8月1日午前明け方にかけて行われる通夜祭には、参詣者が多く、二の鳥居のある清滝から山頂まで、人の列が続きます。この日のお参りは千日詣と呼ばれ、延宝4年(1676)に成立した『日次紀事』のなかでも記されています。一日で千日の参詣に匹敵すると言われており、参詣者は火災除けの護符と櫛の枝をうけ、これを家に持ち帰って神棚やおくどさんに祀ります。



令和2年と3年はコロナ対策のため1夜限定を10日間に拡大して実施されました。



歴まち処 ～鮎茶屋・平野屋～

愛宕神社の一の鳥居の麓に茶店を構える平野屋は、創業約400年の老舗で、店舗は19世紀前半に建築されました。保津峡谷に近い立地から、鮎問屋を営んでおり、保津川水系の清流で獲れた新鮮な鮎を、一晩休ませ朝一番で「鮎もちさん」と呼ばれる担ぎ手が両天秤で京の料亭に卸していました。やがて愛宕神社の参詣客にも鮎料理を提供するようになりました。

愛宕名物「志んこ」は、米の粉で手造りしただんごで、ニッキ・お茶・白の三色で愛宕山の九十九折の坂道を表しています。



名物「志んこ」



平野屋



歴まち事業の紹介 ～嵯峨鳥居本町並み保存館～

愛宕街道は清涼寺(嵯峨釈迦堂)の門前から西へ鳥居本を経て清滝・愛宕山へ通じる道であり、愛宕神社への参詣路です。街道沿いに位置する嵯峨鳥居本は、伝統的建造物群保存地区になっており、江戸時代末期から明治・大正にかけて、愛宕街道沿いには、農家、町家のほかに愛宕詣の門前町として平野屋などの茶店も建ち並ぶようになりました。

「京都市嵯峨鳥居本町並み保存館」は、市民や一般観光客に伝統的建造物の内部を公開することによって、京都市の町並み整備施策に理解を深めてもらうため、平成5年に民間の伝統的建造物を土地と共に借り受け、国の補助金を活用して整備を行いました。

館内では、昭和初期当時の姿に復元した町並み全体の模型及び茅葺き民家の模型と、市内の伝統的建造物群保存地区を紹介した写真パネルを展示しています。



京都市嵯峨鳥居本町並み保存館



で京都検定にチャレンジ!

「歴まち計画(2期)」を読んで、今号で紹介したエリアに関する京都検定試験問題に挑戦してみよう!(京都・観光文化検定試験3級 過去問題より引用)

(A) 7月31日の夕刻から翌朝にかけて「千日詣り」が行われる鎮火の神として庶民の信仰を集める神社はどこか。(2018年第15回)

- (ア) 愛宕神社
- (イ) 福王子神社
- (ウ) 車折神社
- (エ) 月読神社

☞ 歴まち計画(2期) 2-15頁を見てみよう。

(B) 京都市の伝統的建造物群保存地区に指定されている地区は「産寧坂」「祇園新橋」「上賀茂」ともう1ヵ所はどこか。(2015年第12回)

- (ア) 北野上七軒
- (イ) 嵯峨鳥居本
- (ウ) 祇園町南
- (エ) 伏見南浜(酒蔵の町並み)

☞ 歴まち計画(2期) 2-16頁を見てみよう。

★ 写真撮影(ト)(ロ) 取材写真(ニ)(ハ)(ヒ)



京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

発行：京都市都市計画局都市景観部景観政策課
住所：京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
電話：075-222-3397 FAX：075-213-0461